

平成10年度総合研究所特別研究「研究報告書」

研究課題「大和・奈良地域の観光に関する研究—伝統と課題—」のもとに、奈良大学専任教員18名が共同して、3ヶ年計画の特別研究が、平成10年4月1日から開始された。研究課題に沿って、研究分野を「歴史」分野と「現状と将来展望」の2分野にグループ化した。

歴史分野は、大和・奈良の観光化の先導的な役割を江戸時代以来果たしてきた絵図屋筒井家の資料研究を中心として、奈良観光の歴史に関する研究を進めることとし、具体的には文学部内の7教員が以下のようにテーマをたてて分担した。

〔歴史〕

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. 大仏前絵図屋出版の名所記案内図の史料学的研究 | 鎌田 道隆 |
| 2. 絵図屋筒井家所蔵の江戸時代版木の研究 | 永井 一彰 |
| 3. 奈良案内記の資料学的調査：奈良大学所蔵資料を中心に | 森田 憲司 |
| 4. 絵図屋筒井家所蔵の版木・銅版の保存科学的研究 | 西山 要一 |
| 5. 大仏前絵図屋出版の案内図の地理学的研究 | 三木 理史 |
| 6. 歌枕の観光地化 | 上野 誠 |
| 7. 伝統芸能と大和旧跡の史的考察 | 藤井 学 |

現状と将来展望の分野では、それぞれの研究者の独自の視点から問題を設定して、大和・奈良地域の観光に関する問題点を明確にしていくという手法をとり、教養部・文学部・社会学部から11名の教員が以下のように8の研究テーマをかかげた。

〔現状と将来展望〕

- | | |
|---|------------------------|
| 1. 観光資源としての奈良公園のシカ | 高橋 春成 |
| 2. 国際観光都市奈良の景観変容とまちづくりに関する研究 | 實 清隆 |
| 3. 大和・奈良地域の外国人観光客受け入れの現状についての研究 | 芹澤 知広 |
| 4. 奈良県下におけるグリーン・ツーリズムの可能性 | 金屋 平三 |
| 5. 奈良地域の観光事業（行政と産業）—環境問題の視点から—
「奈良市民および観光客の意識調査vs.現状」の比較分析 | 中川 寿夫
横田 浩 |
| 6. 奈良美食考 | 大村 喬一
堤 博美
東山 弘子 |
| 7. GIS（地理情報システム）を利用した観光データベース開発と
研究成果プレゼンテーションシステムの開発 | 碓井 照子 |
| 8. 奈良近現代文学遺跡と観光政策 | 浅田 隆 |

本研究全体の趣旨については、平成10年4月30日付の奈良県庁記者クラブでの記者会見の配付資料で次のように公表して、研究への理解と協力を訴えた。

奈良大学総合研究所特別研究

大和・奈良地域の観光に関する学術研究

— 伝統と課題 —

奈良が著名な観光地であることは、日本国内はもとより世界的に広く認知されている。観光地として奈良が名声を高めてきた背景には、奈良の歴史的遺産を中心として、観光資源を発掘・公開し、旅行案内書や観光絵地図を編纂発行し、また宿泊施設を整備して観光案内人を配置したり、土産物を考案するなど、観光のノウハウを多方面から開発してきた先人たちの努力があった。

今日的な意味での奈良の観光地化は、江戸時代の中期ごろ、ちょうど東大寺大仏の修造と大仏殿の再建を中心とする社寺の復興期に始まると考えられる。この時期は、天下の台所といわれる大坂が経済都市として台頭してきたことにも影響されて、奈良晒生産で繁栄してきた産業都市奈良の地位は低下しつつあった。奈良の人々は、社寺の復興事業を好機としてとらえ、産業都市から観光都市への転換に取り組んだのである。

この奈良の観光事業を先導するかのようになり、奈良・大和に関する名所案内記や観光絵図を、江戸時代中期から明治・大正・昭和期にいたるまで発刊し続けてきた絵図屋筒井家の事績は、あまり知られていない。しかも、東大寺大仏殿の西側に現存する筒井家に保存されてきた絵図屋関係の貴重な資料群については、総合的な学術研究はおこなわれたことがなく、文化財としての価値も十分に認定されてはいない。

世界的な観光地として名高い奈良ではあるが、現今の奈良観光のスタイルやシステムの基本は、江戸時代の人々が知恵と工夫を重ねて編み出してきた江戸時代の観光観に、近代の修学旅行を加えて成り立っていると言っても過言ではない。そうした奈良観光が、現在では閉塞状態に陥っているのもまた事実ではないだろうか。

いまこそ、奈良観光の歴史をしっかりとふりかえり、先人たちの観光事業への取り組みを検証し、観光資源の開発や観光手法のアイデアやそこに投入されたエネルギーに学びつつ、現在と未来にかかる課題を明らかにして、奈良観光への提言を試みるのが大切であろう。このため、奈良大学では総合研究所の事業として、「奈良・大和地域の観光に関する学術研究—伝統と課題—」というテーマで3ヵ年の研究計画を実施することとなった。この特別研究の成功のために、奈良県・奈良市はもとより、あらゆる公共機関および個人の皆様方の情報提供・情報公開を切にお願いする次第である。

平成10年4月30日

奈良大学総合研究所特別研究班

特別研究研究報告書

特別研究初年度は、総額300万円の研究費を本学教育研究経費から交付され、歴史分野150万円、現状と将来展望分野150万円に折半して、歴史分野は7名の共同研究費、現状と将来展望分野はテーマ毎に細分割したテーマ別研究費とした。

以下2つの分野における研究経過の報告を総論的に略記する。なお、個別テーマ毎の「研究報告書」は総合研究所で閲覧できる。

歴史分野では、当初の計画どおり、絵図屋筒井家の資料を研究の中心に据えることとして、担当者がそろって筒井家を訪問し、所蔵資料についてのお話をうかがい、実物を見せていただき、今後の研究への協力をお願いするところから着手した。初年度は、絵図屋発行の案内記・観光図等の複写収集や版木の概要調査、また他機関所蔵の絵図屋関係資料についての情報収集などとするを申し合わせた。

具体的には、奈良市文化財課の協力と所蔵者筒井正夫氏の許可を得て、筒井家の文書・記録のマикроフィルム（紙焼きを含む）および絵図などのコピーによる収集をほぼ完了した。また古書市等での絵図屋関係資料も若干ではあるが購入することができた。しかし、これらはいずれも厳密な分析・考証にもとづく整理が必要であり、そのためには、絵図などのマイクロフィルムによる撮影とその解析が進められなければならない。これは次年度の課題となった。版木については赤外線写真による撮影や材質・顔料などの調査にも着手したが、保存手法など今後の大きな課題も認識した。

現状と将来展望分野の研究については、研究経過は総論的には記述できないので、各テーマ毎の「研究報告書」によらざるを得ない。この分野については、開始の時点から個別研究となってしまう、総合的な視点からテーマが組み立てられてはいない。たとえば、観光行政や観光事業者の問題、交通や環境などについての正面からの取り組みは不可欠ではないかと考えられるが、こうした研究については、奈良県立商科大学の研究グループとの提携など必要があったのではないかと。

とはいえ、初年度の研究テーマをみても、総合的なテーマ設定方式では見落とされるかもしれない個性的な問題意識のユニークな研究テーマが多い。こうした視点は行政部門での研究には欠落しがちで、大学ならではの研究であるといえるかもしれない。各「研究報告書」の中身については触れ得ないが、研究手法の問題として、アンケート調査などいくつかの研究グループが共同して進めることを試みてもよいのではないかとか、研究データの共有化ということも、研究の途中でも必要なのではないかという印象をもった。

（文責：特別研究代表 鎌田道隆）